



福岡市都市景観賞 受賞作品が 決まりました。

福岡市都市景観賞受賞作品

福岡市都市景観賞審査委員会委員長
坂井 猛（九州大学教授）



福岡市都市景観賞審査委員会委員（敬称略）

- 池田 美奈子 九州大学准教授
- 井上 真一 九州産業大学准教授
- 小野 和美 (株)電通九州 部長
- 酒井 咲帆 albus 写真ラボオーナー
- 坂井 猛 九州大学教授
- 柴田 久 福岡大学准教授
- 末廣 香織 九州大学准教授
- 西川 真水 西日本短期大学准教授
- 伊藤 亘 住宅都市局理事

<審査基準>

1. 創造性を評価します。(表現が個性的で、都市の魅力を高めている景観)
2. 周辺との調和について評価します。(周辺のまちのたたずまいを活かし、まちなみの魅力を高めている景観)
3. 都市文化への貢献について評価します。(市民に愛され、誇りを持って受け入れられている景観)
4. 地域の魅力を高めている点について評価します。
5. その他賞の趣旨にかなうもの。

<賞>

【部門賞】応募された建築部門・ランドスケープ部門・屋外広告部門・活動部門より、優れた景観を選出。
【大賞】部門賞の中から最も優れた景観を1件選出。

福岡のまちの魅力を創りだしている建物や通り、企画や活動に関係している人たちの努力を讃え、広く市民に伝えることを目的として創設された福岡市都市景観賞は、2011(平成23)年度に25周年を迎えました。都市景観賞審査委員会では、この四半世紀の節目を機会に、より肌理細かくわかりやすい表彰のあり方を目指して、これまでの審査方法の見直しを行いました。市民の皆さんからの推薦・応募に基づき審査を行う、という福岡市都市景観賞の大きな特徴となっている審査方法は、新たに、建築、ランドスケープ、屋外広告、活動の四部門を設け、部門別に審査を行うことになりました。

「和臼青松園」は、松林に囲まれた起伏ある土地に建つ児童養護施設であり、126名の子供達が生活する施設として、既存の樹木を避けて慎重に建て替えた建築群と周辺に残された緑が、自然環境に抱かれて生活を楽しみます。ランドスケープと建築が一体となった巧みな構成が委員全員の一致した支持を得て大賞を授与することとなりました。「JR博多シティ」と「福岡大病院新診療棟」の二件は、いずれも大規模建築の更新物件であり、地域との連携を重視しつつ創りあげた建築は、地域の顔となって都市景観に大きなインパクトを与えています。ランドスケープ部門では、「減築による街並み修景」を一件選定しました。減築した小規模住宅の姿勢は隣家の減築に影響を与えており、都市景観をつくりだすムーブメントをつくることへの期待感を生んでいます。

次の四半世紀のスタートにあたって選定された九件は、これまで培われてきた各々の土地の環境のもつ文脈に敬意を払い、大事に継承しつつ新しいものやことを加えていく過程で生み出された結果であり、これからの都市景観像のひとつの方向を示していると思います。これからも、福岡の都市景観に寄与する素晴らしい建築、ランドスケープ、屋外広告、活動が数多く生まれ、市民の皆さんが自分のまちを見直すきっかけとなることを願っています。



活動部門では、三件を選定しました。「リノベーションミュージアム冷泉荘」は、リノベーションした昭和時代の集合住宅に同居する文化人、アーティストの情報発信やイベントなどの活動がそしてブックオフは、一箱古本市観に寄与しています。



大賞 Grand Prize 和臼青松園 WAJIRO SEISHOEN 福岡市東区三苦2丁目

松林に囲まれた既存の児童養護施設の増改築計画である。できるだけ松林と起伏あるランドスケープを残しながら、いくつもの施設が新しく計画された木造の渡り廊下によって接続されている。木造あり、RC造あり、建設された時代も様々な既存建物を改修して、そこに新しい建物を追加しているのだが、どこからどこまで古い建物なのかほとんど分からない。ほぼ平屋の建物群はひっそりと自然の中に溶け込んでいるが、その風景の印象を決定づけているのが絶妙に配置された渡り廊下である。それはまるで自然の中の遊歩道のように、そこを歩いていると自然と幸せな気持ちになる。敷地の状況を注意深く読んで、既存の施設を生かす細やかなデザインは、環境の時代を象徴している。(末廣委員)

- 所有者 — 社会福祉法人 福岡県社会事業団
- 設計者 — 株式会社 環・設計工房
- 施工者 — 大高建設株式会社
- 関係者 — 社会福祉法人 福岡県社会事業団 児童養護施設 和臼青松園

審査の流れ

5月上旬～7月末
【募集】
自薦・他薦を問わず景観賞推薦案件を募集
応募総数 計131件

9/5(水)
【書類審査】
写真と推薦コメントをもとに審査
計22件を選出

10/3(水)
【現地審査・本審査】
書類審査で選んだ
22件について現地視察や調査をもとに審査
表彰案件について、大賞および
各部門 計9件を選出

10/29(月)
【各賞決定】
市長が正式に決定

11/20(火)
【表彰式】

次の四半世紀に向け、さらに魅力ある賞へ。 26年目を迎えた「都市景観賞」は、表彰の形が新しくなりました。

「福岡市民の皆さんの思いを反映した賞であること」表彰の形をリニューアルする際、まず大切にすることは、この基本姿勢でした。その上で、選ばれた景観の特徴や役割がより分かりやすいように4つの部門と最も優れた景観に贈る大賞を設けることになりました。また今年から、都市景観賞の表彰を2年に1度開催のビエンナーレ形式に変え、間の年は都市景観賞に選ばれた景観について、市民の皆さんと議論を深める年としました。

今回市民の皆さんから推薦された景観は、これまで同様、いずれも創造性豊かで個性的でありながら周辺との調和を保ち、地域の魅力を高めているものばかりです。市内を巡って現地実際に審査に当たった審査員も、あらためて、福岡のいきいきとしたまちづくりに、市民に親しまれる景観が果たしている役割が大きいことを実感しました。

新しく設けられた四部門

- 建築部門**
住宅(戸建・集合)、店舗、商業ビル、ホテル、学校、病院など
- ランドスケープ部門**
住宅団地、通り、広場、公園、オープンスペースなどのまちなみ、橋、彫刻、サイン、など
- 屋外広告部門**
屋外にある看板、バス・電車の車両外部広告など
- 活動部門**
地域の魅力を高めている企画や活動